

福島県環境審議会第1部会（平成17年9月20日）の意見

意見箇所	委員	意見の内容
1 計画策定の背景と目的	長澤委員	「持続可能な」は、「恵み豊かで持続可能な」という表現の方が良いのではないかと。
	須藤委員	「自ら考える能力を身につけるとともに、自ら率先して実行することが重要です。」は、「自ら考える能力を身につける。さらに、自ら率先して実行する。」と区切った方がもっと強くなる。
	瀧本委員	二つ目の「自ら」を取り、「自ら考える能力を身につけるとともに、率先して実行することが重要です。」という表現にすれば強くなる。
4 現状と課題（3）生活様	後藤委員	「といった」というところは、「廃棄物の少なかった」とした方が良いのではないかと。
5 福島県が目指す循環型社会（3）心の豊	長澤委員	「もったいない」のアンケート調査結果を生かすため、行動まではいっていないけれども、「もったいない」という言葉、意識がわかっているということをごここに入れた方がいいのではないかと。
6 施策の展開（1）自然循環の保全	中村委員	「地域における有機性資源の循環利用」に関連して、「健全な水の循環を保全するための総合的な管理」と「猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群における健全な水の循環の保全」で、有機資源の循環利用を進めることが健全な水の循環の保全につながるという認識を持つべき、そのような趣旨の記述が入れられるか。
6 施策の展開（1）自然循環森林の保全、整備等	引地委員	人工林が今は植えっぱなし、木の間隔が詰まっているから成長が良くないとか、透水性が悪くて雨が降ると洪水になるとかの問題がある。間伐の利用促進とか、そのことで透水性を良くして洪水の防止にあたるとかの文章を追加していいのではないかと。「間伐を促進して木の成長を高め、そして透水性を高め、その周囲の植物の生育のために太陽光のあたるような人工林を整備し、そうすると結果として洪水を防ぐことにつながる」というような表現
	大越委員	森林づくりをすることは大変結構だが、それを維持管理してきちんと整備していかなければならないというような文章を入れるべき。
	須藤委員	人工林というより「里山」という言葉を入れてもいいのではないかと。
	後藤委員	福島県で「森林セラピー基地」というようなことを構想されていたと思うがそういった施設もここに引っ込んでいく必要があるか・・・。
6 施策の展開（1）自然循環持続性の高い農業生産方式の普及等	大越委員	「森林づくり運動を推進します。」という記載があるが、森林づくりをするだけではダメで、それを維持管理してきちんと整備していかなければならないというような文章を入れればいいのではないかと。
	長澤委員	市民の方達の家庭菜園づくりというのが専業農家の方達の後押しをするのではないかと。この作物づくりが農業を推進していく応援団になっていくというようなことを一項目入れてはどうか。農業をしている方達の応援団としての意識、そういう消費者に応援されていることが身近に感じられることが農業をやろうという気につながる。
	白井委員	「遊休農地の発生防止」について、農業サイドの努力だけでは、後継者がいなくなっていることもあり限界。農業外の資本によって、農業のやれない点を補っていくことによって農地が保全され、国土が保全されるという循環が起きている。農業が自分でやれないんであれば他の手を差し伸べることが必要で、「農業外資本を導入することで農地の果たす役割、農地の保全とかを果たす」ということを記載すべきではないかと。

意見箇所	委員	意見の内容
6 施策の展開 (1) 自然循環持続性の高い農業生産方式の普及等	引地委員	農業離れたのは、作っても売れないとか流通機構がうまくいっていないとかで若い人が農業を離れて他の仕事を持って米ぐらいしか作らない。流通機構が一番問題。そういうのは農業の人だけでは作れないので、バックアップすることが大事。
	長澤委員	もともとトマト生産地で、甘いおいしいトマトということで市場で評価されていたが、そこに大きな資本が入ってきて逆に生き残りが厳しくなった。循環型社会を考えるとどこに軸足を置くかが問われる。今まで培ってきた農業や農家を大切にしていこうということを感じ取り込むべきではないか。
	大越委員	大手の資本が入ってきて農業が工業化されるということは、真の農業者、きちんとやっている農業者を育成するのではなくて、かえってそういう人たちを排除することになって循環型社会の重要な部分である農業という部分が非常に心配なことになるのではないかと。ここでは、循環型社会に重要性を見出していかなくてはならないので、原文の表現で止めた方がいい。
	引地委員	地元の農業者を育成していくためには地産地消で、大規模でなくても新鮮な生産物を地元で効率よく流通することをやっていけば両立できる。何でも工業的になってしまうのは問題だが、特定の需要の多い農産物であれば考えられるので2本立てで説明した方がよい。
	中井部会長	文章の表現だけからすると、必ずしもどちらかを排除しているわけではないと思う。「農業外資本の導入」を入れると少し意味が変わってしまうというのが争点。20～30年先ではそういうことが考えられるかもしれないが、現実の話として入れ込むべきかと思う・・・。
6 施策の展開 (1) 自然循環水産資	大越委員	「漁業所得向上を推進します。」という言葉が入っているのは疑問。
	後藤委員	養殖のことを入れて頂いたが、養殖という生産方法が持続的であるべきであるという視点で入れてほしい。できるだけ持続可能な生産方法にしてもらいたい。
6 施策の展開 (1) 自然循環健全な水の循環 猪苗代湖及び裏	白井委員	下水道とか農業集落排水の中に汚泥を最終処分場に持って行って重油をかけて燃やしている。それを有効利用ができないか、微生物を使って発酵させて肥料化することができないか。下水道の汚泥を循環させてほしい。
	中村委員	下水道汚泥を含めて微生物循環で完全たい肥化するなどある程度具体化されていることでもあるので、どこかに盛り込めれば有機物循環のことからもいい。
	中井部会長	ここは水循環の部分なので、どこか別のところに盛り込んでいくということで検討。
6 施策の展開 (1) 適正な資源循環環境の負荷を低減するための交通の円滑化	中村委員	「新都市交通システムの整備」といったことを入れることが可能かというのを検討いただけないか。例えばモノレールとか簡易路面電車等。
	後藤委員	交通の話は、都市の構造の話につながる。郊外へのスプロール化が進み集客しにくい構造にあることが集中型の交通システムの導入を疎外する要因になっている。システムの言及をするのであれば、コンパクトな都市交通を整備しますといったことも入れてほしい。
	須藤委員	もし、モノレールとかの公共交通機関を造れたならば、駅となるところに車のプールを造るとかの議論を進めていけば利用する人も多くなると思うが、この計画に書けばそれに近づくということもある。
	長澤委員	「新都市交通システムを将来に向かって導入すべく検討課題とする。」というような項目を入れればいい。
	大越委員	ノーマイカーデーといった具体的施策もあるが、それを実現するために利用するものがない・・・中村委員の言ったように入れてもいいかと思う。
後藤委員	ローテクで、気持ちよく自転車を通れるような道路を整備するというような方策もある。	

意見箇所	委員	意見の内容
	瀧本委員	その問題については、交通網を検討するという項目でいいのでは。検討するとなれば担当機関でそれを考えるということもあるので、一応ここに検討しましょうということを入れてもいい。
6 施策の展開 (2) 適正な資源循環 廃棄物等の発生抑制及び	白井委員	「農業用使用済みプラスチックの適正処理」の記述はいいが、いわゆる土に戻るようなプラスチック、生分解プラスチック、そういうものに関する記述があってもいい。
	長澤委員	「過剰包装防止対策、住民の自家処理の促進・・・」について、よくわからない文章なので、もう少しわかりやすく書いてほしい。
	長澤委員	廃棄物の発生抑制の前に資源循環の利用促進といった説明があるが、具体的施策というのは、ゼロエミッションとかエコ・リサイクルとかグリーン購入とかが来て、その後リサイクルの促進というものが来た方がよい。
	中井部会長	3Rの優先順位に沿って、リデュース、リユース、リサイクルの順に並べ替えと方がよい。
6 施策の展開 (2) 適正な環境物	長澤委員	具体的施策のところ、省エネ製品の購入というのが入るべきではないか。
6 施策の展開 (2) 適正な資源循環 産業廃棄物の適	長澤委員	産業廃棄物処理施設を作った後のことが書いてあるが、施設を作る際の申請許可の厳正な指導と審査といった項目が入れられないか。
	引地委員	環境影響評価と言うのを実施することになっているので、そこを強調したらどうか。
	中村委員	具体的施策の中に「産業廃棄施設の・・・各種施策に取り組んでいくものとします。」とあるが、これを1番目の項目にあげて、そこに厳正に対処するというような趣旨を盛り込めば良いのではないか。
6 施策の展開 (3) 心の豊かさ を重視 循環型社会の形	中村委員	「心の豊かさや生活の質を重視し・・・必要です」という表現があるが、それを本文の冒頭のところに入れるとよりはっきりする。
	岡崎委員	「自然環境の地球環境に果たしている役割」とあるが、「自然環境＝地球環境」だと思うので、例えば「身近な自然環境が地球環境に」とか、それは削り「自然保護思想を深めるため」又は、「環境保全への理解」とか言い換えればすっきりする。
7 計画の推進	須藤委員	リサイクルということがすごく強調されていて、それより前にリデュースとかリユースとかを強調してまとめたらいいのではないか。3Rの前の2Rを県民の役割とか行政の役割とかに入れ、読んでみてリサイクルが最後だと思えるように書かれると良い。
7 計画の推進 (4) 行政の県	後藤委員	「それらに対する取組環境の整備」という表現は、例えば「取り組みやすい環境の整備」などとしてはどうか。

福島県環境審議会（平成17年9月26日）の意見

意見箇所	委員	意見の内容
5 福島県が目指す循環型社会（2）適正な資源循環	羽田委員	3Rに限らず、今は4Rと言われているが、ここを3Rとした特別な理由があるか。3Rでは一番基本の部分が欠けているということもあるので、記述するのであれば4Rにした方が良い。
6 施策の展開（1）自然循環持続性の高い農業	新妻委員	たい肥化について、良質のたい肥をつくるというのは意外と難しい。たい肥化に限らずバイオガスにすると色々な方法があるので、バイオマスということも加えていただきたい。
	長澤委員	「遊休農地の発生防止と活用の促進を図ります」とあるが、この表現を「活用の支援と促進を図ります」というふうに支援とか支援体制という言葉を入れていただきたい。
6 施策の展開（1）自然循環水産資源	大越委員	ここでは海域における水産資源が主なものように書かれているが、内水面や川とか湖の水産資源で生活している人もいますので、その項目をどこかに加えていただきたい。
6 施策の展開（1）自然循環健全な	新妻委員	「雨水、下水処理水等の散水への利用や中水利用の促進」に関連したことで、下水と雨水タンクを一緒に工事ができる。浄化槽を清掃して、そのまま雨樋から雨水を流し込んで雨水タンクにする。こういうことを進めていってほしい。
6 施策の展開（1）自然循環県の工	大越委員	県の管理する河川について、河川における魚道の確保ということも大事なことなので加えていただきたい。
6 施策の展開（2）適正な廃棄物の発生抑制	畠山委員	コラムについて、「廃棄物の発生抑制」ということが大きな課題として挙げられているが、それに対する対策案として工業製品については修理して使える物は修理して使うということがある。コラムという書き方で色々な手段があるとか技術的な方法があるとかということ表現していただいたら、インパクトがあって良い。
	新妻委員	「福島県ごみ処理広域化計画」というのは大型焼却炉の推進のことで、なぜここに入ってくるのかなという感じがする。これに関しては、具体的な施策について何も出ていなかったはず、これが廃棄物処理計画に入っているんだったらやむを得ないと思うが、循環計画に入るというのは非常に矛盾している。
6 施策の展開（4）共通の科学技	羽田委員	「新エネルギー発電システム」というのは具体的にはどういうことを想定しているのか。
7 計画の推進（1）県民の役割	鈴木委員	県民の役割を見たとき、廃棄物の排出者としての立場だけで、いわゆる資源循環についてのみ強調されている生活者としての自然循環や生活様式・行動様式に係る役割を明確にして記載したら良い。
7 計画の推進（4）行政の県	畠山委員	ここでは、県の中での取組みは書かれているんですが、県から外への働きかけについては何を考えているのか。
7 計画の推進（5）連携	福島委員	突然産学官民というのが出てくるというのも気になる。連携の事例のところではいろんな取組みがされているということを紹介してもらえれば、この記述が生きる。

福島県循環型社会形成推進計画（仮称）の策定にかかる県民意見等募集結果

1 福島県循環型社会形成推進計画（仮称）（案）

意見提出者数： 15名・団体

【（内訳） 個人 12 法人・団体 3】

番 号	事 項	意 見 数
1～2	4 現状と課題	2
3～5	5 福島県が目指す循環型社会	3
6～14	6 施策の展開 (1) 自然循環の保全	9
15～19	6 施策の展開 (3) 心の豊かさを重視した	5
20	6 施策の展開 (4) その他	1
21～25	7 計画の推進	5
	合計	25

2 もったいない50の実践

意見提出者数： 24名・団体

【（内訳） 個人 24 法人・団体 0】

県民意見等募集結果について

4 現状と課題

(1) 自然循環について

番号	頁	意見の内容
1	2	環境破壊と経済発展や情報化の進展等の関連について述べているが、環境破壊をもたらしたのは20世紀までの大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済システムであり、上から9行目の「近年の急激な経済発展」という表現は不適切ではないか。また、同行の「情報化の進展」と環境破壊の関連は薄いのではないか。記述内容を精査する必要があると考える。

4 現状と課題

(3) 生活様式・行動様式について

番号	頁	意見の内容
2	3	「ものを中心とした」と「ものを大切に」という表現があるが、「物」又は「物質」と表現した方が分かり易いのではないか(4頁のコラム中では、「物」と表現している。)

5 福島県が目指す循環型社会

(1) 自然循環が保全された社会～自然と人が共生する社会～

番号	頁	意見の内容
3	3	「人の活動が、～優先することによって、～」という表現があるが、「優先する」という意思を持つのは「人」であり、「活動」ではないので表現を改めるべきである。

5 福島県が目指す循環型社会

(2) 適正な資源循環が確保された社会

番号	頁	意見の内容
4	4	断る(リフューズ)を入れて「4Rの推進」にすべきでは
5	4	「3Rの推進」で全く「ごみ」の出ない社会が実現出来ると考えるのか。人の生活により少なからず「ごみ」が発生することを認識(自覚)し、ごみの減量に努めることが重要なのではないか。

6 施策の展開

(1) 自然循環の保全～自然と人が共生する社会を目指して～

番号	頁	意見の内容
6	5	「自然循環の保全」に大気についての具体的な内容が見られないように思う。大気汚染についての明確な対策も含んだ方がいいのではないかと思う。
7	5	森林の保全、整備等 自然林の育成管理の視点も必要では

6 施策の展開

(1) 自然循環の保全～自然と人が共生する社会を目指して～

番号	頁	意見の内容
8	6	健全な水の循環を保全するための総合的な管理 「排水の規制」とあるが、表現がまわりくどいので、「排水の規制」で良いのではないか。
9	6及び7	健全な水の循環を保全するための総合的な管理 水源地帯への廃棄物処分場の設置を規制（禁止）する方向で検討していただきたい。
10	7	健全な水の循環を保全するための総合的な管理 「地下水の水質汚濁状況を」とあるが、基本的には地下水の場合は土壌でろ過されるため汚濁することはないことから、「地下水の水質汚濁状況を」に改めるべきではないか。
11	7	猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群における健全な水の循環の保全 「窒素及びりんに係る排出規制を」とあるが、水質規制の場合は通常、「排水規制」という言葉を使用するので、「窒素及びりんに係る排水規制」にすべきではないか
12	8	野生動植物の保護 「県民の財産である野生動植物を保護するため」とあるが、野生動植物は福島県以外にも生息して（例えば、福島県野生動植物の保護に関する条例の特定希少野生動植物としてコアジサシが定められているが、これは渡り鳥である。）おり、これを「県民の財産」と言い切ってしまうか疑問があることから、福島県野生動植物の保護に関する条例で表現している、「生態系の重要な構成要素」という言葉を用いて、「生態系の重要な構成要素である野生動植物を保護するため」としてはどうか。
13	9	県の工事等における健全な自然循環への配慮 現在工事中の115号土湯温泉の近くのトンネルですが、周囲はたくさんの緑に囲まれており、たぬき等の動物への影響が気になります。工事による生態系への調査やその結果をわかりやすく公表していただきたいと思います。
14	9	県の工事等における健全な自然循環への配慮 福島県の自然を生かすうえでも必要以上の開発は行うべきではないと思います。

6 施策の展開

(3) 心の豊かさを重視した賢い生活様式・行動様式への転換～「もったいない」の心が生きている社会を目指して～

番号	頁	意見の内容
15	14	循環型社会の形成に関する教育及び学習の振興等 学校で、「もったいない運動」をやる。小学校のうちから、資源について学んだり、実際の生活でどうすれば「もったいない」ことをしないようにできるか学べれば、これからの社会に広まると思います。
16	15	県民等の自発的な活動の促進 福島県もったいない日、マイバックの日を主唱したらどうか
17	15	県民等の自発的な活動の促進 「もったいない」ものを活用すること、私たちにとってどれだけ良いか、地球環境にどんな影響を与えるかを説明し、実践しようとする気持ちを高めて欲しいです。あとは、これを実践する時に、特に若者は「恥ずかしい」という考えを持つと思います。これを取り扱うような実践方法が必要だと思います。

6 施策の展開

(3) 心の豊かさを重視した賢い生活様式・行動様式への転換～「もったいない」の心が生きている社会を目指して～

番号	頁	意見の内容
18	15	県民等の自発的な活動の促進 現代では生活が豊かになり、物がありふれていることから人々は「もったいない」という感覚を持ちつつも、そのもったいないことをしていることが多いと思う。しかし資源や自然には限りがあること、無駄なゴミを減らすことを考えると「もったいない」という意識を持つことは大切だと思う。
19	15	県民等の自発的な活動の促進 「もったいない」が本計画のキーワードらしいですので、念仏のように唱えるところから始めてはいかがでしょうか。言葉が染みついて自ずと発現するようになれば、行動ももしかしたら自ずとその方向に行くかもしれません。

6 施策の展開

(3) 共通の施策

番号	頁	意見の内容
20	16	経済的措置 産業廃棄物税や森林環境税を課税するに当たり、循環型社会形成については県民のさらなる理解と協力を得ることが肝要であり、そのためには税導入の目的やその用途についての詳細な記述が必要と思われる。案の記述では、新税導入の目的が単なる経済的措置への財源確保と解され、納税によって循環型社会形成へのさらなる関心を喚起するというもうひとつの効果（いわゆるアナウンス効果）が期待されない。

7 計画の推進

(1) 県民の役割

番号	頁	意見の内容
21	16	生活の質からして循環型とは言えないと思う。「もったいない」という言葉を合い言葉にしても、家電製品など、修理して使うより新しく買った方が安上がりだという現実がある。こういった仕組み自体を変える必要があるのではないかと思う。
22	16	とてもよいことだと思います。資源に限りがあることはもうすでに理解していることなのに、なかなか省エネできない生活習慣になっています。この計画を、もっともっとアピールして、福島県が自然を大切に、共に生きることを当然のこととする意識改革までできるようにしていきたいですね。

7 計画の推進

(4) 行政の役割

番号	頁	意見の内容
23	17 ～18	計画は良いと思います。これを県民に伝えるため、TVCMや新聞広告を用いてはどうでしょうか。特に福島県出身者（ex. 中畑清、伊東美咲）がPRすれば話題になると思います。（ギャラの問題もありますが）
24	17 ～18	もっとPRすべきである。講義で聞かなければこのような意見が言えることすら知らなかった。

番号	頁	意見の内容
25	17 ~18	初めて、このような計画があるのを知りました。もっと多くの人たちに知ってもらうための大きなキャンペーンをした方が良くと思います。単なる形式化とならない様、頑張ってください。